

2 「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の指導・支援の検討を踏まえた授業研究を行う。

今期研究の2年次令和5年度はグループごとにテーマを設けて第1グループから第3グループのグループ研究に取り組んだ。2月には各グループの研究授業を公開授業研究会とし、学校外からも参観者を募って授業参観してもらい、その後授業研究会を行った。

第1～3グループの研究授業における対象児童生徒を㊸～㊾と表記する。

(1) 第1グループ「自分の思いを伝え相手の思いを受け止める児童生徒の育成」の研究授業 <小学部C組生活単元学習「おみせやさんになろう」>

本学級の5年生3名、6年生3名の児童は、制作活動や様々な素材に触れることが好きで、材料や色を自分でイメージして作品を作る児童が多い。イメージして作成することが難しい児童も好きな材料や色を選び素材を味わいながら、意欲的に制作に取り組んでいる。また、どの児童も人と関わることが好きで、小学部他クラスの児童と関わる単元等の経験を積んできている。

グループの研究テーマと関連深いコミュニケーション面においては、本学級の児童は、毎日の習慣化したやりとりや自分の要求等を自分から伝えることが、少しずつできるようになってきている。発語のない児童も、ジェスチャーやコミュニケーションカード等でコミュニケーションをとろうとしている。

本研究授業では本学級の好きな制作を生かし、友達同士で楽しく関わりながら思いを伝え合う単元を設定したいと考えた。そこで、児童一人一人がお店屋さんになって、商品を制作する等して店を準備し、店員として客に商品のよさを伝えたり、商品を売ったりする活動に取り組むこととした。最終週には他学級の児童や教師を客に迎える活動を計画し、それに向けて単元中盤では学級の児童同士で店員と客を交代してやりとりの練習を行うこととした。お店決めや商品作りから自分で準備を進めることにより、主体的に活動を進めたり、積極的に人と関わったりする姿が引き出せると考えた。また、人との関わりや友達と遊ぶことが好きな児童からは、相手の喜びを期待して工夫しながら商品を制作したり、商品のよさを工夫して伝えようとしたりする姿を引き出すことができると考えた。

【単元目標及び評価規準】

	柱	単元目標	評価規準
国語科	ア	店や買い物にまつわる会話を通して様々な言葉や適切な言い方を知ったり使ったりすることができる(小2、3)。	店や買い物にまつわる会話を通して様々な言葉を知っている(小2)
			店や買い物にまつわる会話を通して、適切な言い方を使っている(小3)

	イ	友達に向けて簡単な台詞等を表現したり、自分の 思いや考えを伝えたりすることができる。(小2、3)	友達に向けて簡単な台詞等を表現している。(小2)
			友達に向けて、自分の思いや考えを伝えている。 (小3)
	ウ	自分なりに台詞を表現してみようしたり、友達と の会話を楽しんだりすることができる。(小2、3)	自分なりに台詞を表現してみようしたり、友達との 会話を楽しんだりしている。(小2、3)
図 画 工 作 科	ア	身近な材料や用具を使い、店の商品を作ることが できる。(小2、3)	好きな身近な材料や用具を使い、お店の商品を作 っている。(小2)
			効果的に身近な材料や用具を使い、お店の商品を 作っている。(小3)
	イ	様々な素材や開きたい店や商品から、作りたい商 品等を思い付くことができる。(小2)	様々な素材や開きたいお店や商品から、作りたい商 品等を思い付いている。(小2)
	イ	自分の商品のいいところを考えて工夫して作った り、友達の作ったもののよさに気付いたりすること ができる。(小3)	自分の商品のいいところを考え、工夫して作ったり、 よさを伝えたり、友達の作ったもののよさに気付いた りしている。(小3)
	ウ	様々な素材や友達の商品に関心をもち、触ったり 手に取ったりすることができる。(小2)	様々な素材や友達の商品に関心をもち、自分から 触ったり手に取ったりしている。(小2)
	ウ	進んでお店や商品作りに取り組み、作り出す喜び を感じることができる。(小3)	進んで店や商品作りに取り組み、作り出す喜びを感 じている。(小3)

※自立活動については、「単元の個人目標」として設定する。また、指導内容を単元の計画に記載する。評価については、個々の目標に照らして単元の中でできたことや主体的に取り組むことができたことを、活動中の様子から見取って行うこととする。

【単元の計画（全15時間）】

次	時	学習内容	指導内容
1	1～2	○何のお店屋さんになるか決める ○お店屋さんの道具を作ろう ・看板、のれん、壁の飾り、お店 の組み立て、ポップ等	○身近な様々な材料や道具を使って作品を作ること(図小2、3) ○材料等から、表したいこと等を思いつくこと(図小2、3) ○物の名前や動作等のいろいろな種類の言葉を聞いたり話したりすること(国小2) ○自立活動 心理的な安定(2)、コミュニケーションの形成(2)(5)を中心に相互の関連を図りながら、個々に指導内容を設定する。
2	3～5	○お店の商品を作ろう ○お店屋さんになろう ・お店屋さんの動画を見る ・どんな台詞がいいか考える ・自分の台詞集を作る	○国語1次に加え ・身近な人との会話を通して言葉の働きに気付くこと(小3) ・言葉や表現に慣れ身に付けていくこと(小2) ・決まった言い方を使うこと(小3) ○図画工作と自立活動は1次と同じ

3	6～10	○お店の商品を仕上げよう ○お店屋さんとお客さんをしよう ・開店準備 ・台詞や動きの確認 ・片付け	○国語は2次に加え ・相手に伝えたいことを自分の知っている言葉に当てはめようとする(小2) ・相手の話の話を受け止めたりすること(小3) ○図画工作科と自立活動は1次と同じ
4	11～15	○チラシとチケット作り・配り ○お店屋さんをしよう ○振り返りをしよう	○国語は3次に加え ・文字を指さしたり、なぞったり、書いたりすること(小1、2) ・経験したことを文に書くこと(小3) ○図画工作科と自立活動は1次と同じ

第1グループでは、対象児童生徒を中心に「コミュニケーション実態把握リスト」を用いてコミュニケーションに関する実態を把握し、年間のねらいを設定した。C組の対象児童④と⑥についてもリストを用いて実態について教師間で検討し、6年生児童④については「自分に合うコミュニケーション手段や内面をより伝えやすい方法を獲得できるようにする」5年生の児童⑥については「自分から表出したり他者に働き掛けたりする力や、必要な支援を求めることができる力を育成する」と年間のねらいを設定した。このねらいも踏まえて、本単元における対象児の単元の個人目標を以下のように設定した。

【単元の個人目標】

④	国語	①店や買い物にまつわる様々な言葉を知ることができる。(小2ア)
		②お店屋さんの練習で、友達に向けて伝えたいことを選び簡単な台詞等を表現することができる。(小2イ)
		③自分なりに台詞を表現してみようしたり、友達との会話を楽しんだりすることができる。(小2ウ)
	図画工作	①身近な材料や用具を使い、店の商品を作ることができる。(小2ア)
		②様々な素材や開きたい店や商品から、作りたい商品等を思い付くことができる。(小2イ)
		③素材を積極的に使おうしたり、自分や友達の商品に関心を向けたりすることができる。(小2ウ)
	自立活動	友達に伝わるように、絵カードやタブレット端末等の様々な手段を使ってやりとりをすることができる。
⑥	国語	①店や買い物にまつわる会話を通して適切な言い方を知り、使うことができる。(小3ア)
		②友達に向けて自分の思いや考えを伝えることができる。(小3イ)
		③積極的に台詞を表現し、友達との会話を楽しむことができる。(小3ウ)
	図画工作	①身近な材料や用具を使い、店の商品を作ることができる。(小3ア)
		②自分の作品のいいところを考えたり、工夫して作ったりすることができる。(小3イ)
		③進んで店や商品作りに取り組み、作り出す喜びを感じることができる。(小3ウ)
	自立活動	店の準備に必要な支援を求めたり、物の貸し借り等で自分から言葉で伝えてやりとりをしたりすることができる。

第1次では、自分で何屋さんをするかを考えて決め、それぞれの屋台作りに取り組んだ。「どんなお店を知っているか」の質問に対し、身近なショッピングセンターや、好きな物のお店を答えることができた。必要な支援を求めたり道具の貸し借りをしたりする機会が発生するよう、段ボールを使って屋台を作成した(図40)。事前に伝えることで、児童⑩も教師に手伝いを頼むことができていた。



〔図40 段ボールで屋台を作成する様子〕

第2次では、販売の場面で使用する言葉を知る学習と、商品作りに取り組んだ。まず、高等部の作業販売の様子の動画を視聴し、どんな言葉が使われているか確認した。また、商品をどのように紹介したいか問いかけたりして、お店屋さんで必要な言葉のみならず、自分が伝えたいことを表す言葉についても整理できるようにした。みんなでお店屋さんで使う言葉の確認をした後は、自分の台詞集の作成にも取り組んだ。

商品作りについては、1次目の屋台の制作と同様に、必要な支援を求めてよいことや、道具等は友達と貸し借りしながら仲良く制作に取り組むこと等を伝えた。商品作りの材料として様々な素材を準備し、一箇所にまとめて置いておき、必要な物を自分の作業スペースに持っていくようにした。友達がどんな材料を使ってどんな商品を作っているか見るができるように場の設定等も工夫するようにした。

第3次では、商品作りを授業の前半で行い、後半はお店屋さん役とお客さん役を交代しながら練習を行った。練習に入る前には教師と一緒に、お店屋さんでの振る舞いや言葉について一緒に考えたり一緒に台詞を言ったりする等、練習の前準備ができるようにした。対象児⑩も⑪も、台詞集の様々な台詞の中から、自分で「特に言いたい台詞」を選ぶことができた(図41)。



〔図41 台詞を選ぶ様子〕

児童⑩は、もともと自分の話を聞いてほしいという気持ちをしっかりもっており、教師や友達とかかわることの多い本単元の学習をととても楽しみにしていた。基本的にはジェスチャーを用いて、自分がやりたいことを教師にどんどんと伝えて、必要な支援を求めることができていた。また、お店屋さんの流れが分かり「いらっしゃいませ」等の台詞カードを友達に提示して(図42)、やりとりを楽しむことができた。しかし、ジェスチャーでは伝えたい事柄の詳細が友達には伝わりにくいためか、制作の場面で「〇〇を貸して」等友達に要望があるときも、教師に仲介を求めることが多かった。そこで、教師は共感的に児童⑩の要望に応じながらも、「友達に直接頼みたいときは、タブレットを使って言ってみてはどうか」と伝えた。だんだんと、自分から友達に声をかけたりや肩をトントンと叩いたりして、友達を呼ぶ姿が見られ



〔図42 台詞カードを提示してやりとりする様子〕

るようになった。そこから、自分の伝えたいことをタブレット端末で探そうとする姿も見られるようになってきたが、タブレット端末では伝えられる内容がまだ限られているので、実際には教師の仲介が必要だった。また、友達に呼びかけたことに満足し、相手が受け止めたかどうかまで注意を向け続けることが難しい場面も見られた。この2点については、今後の課題としていきたい。

児童⑥は音声で話すことができるが、お店屋さんの練習でもカード提示をしていた。そこで、「カードの使用を続けてもよいし、台詞を覚えてカードを使わなくてもよい」ということを伝えた。児童⑥は緊張する場面ではやりとりが消極的になることが課題であるので、この台詞カードの使用は児童⑥に安心をもたらすものとして継続することとした(図43)。練習を繰り返す中で安心感をもつことができたようで、学級の友達に対し、カードを提示せず音声で伝える場面が増えていった。また、伝えたい内容が広がっていき、「めがね、かけていいよ」等台詞カードにないことでも考えて言葉で伝えるようになってきた(図44)。

第4次の他学級の児童や教師をお客として迎えたお店屋さんの活動では、普段関わりの少ない児童や教師に対しても、台詞カードも用いながら積極的にコミュニケーションをとろうとする姿を見ることができた。自分が工夫を凝らして作った商品を、相手がよろこんで持ち帰る様子を見ることがうれしい様子だった。自分の商品の好きな点を伝えたり、おすすめ品を紹介したりしていた。工夫してだんだんとよい商品を作っていたことについて「ぼくのお店、進化している」と表現した児童もいた。対象児⑥と⑦の単元目標に対して以下のように評価を行った。



〔図43 台詞カードを提示してやりとりする様子〕



〔図44 自分の伝えたいことを伝える様子〕

児童	教科		評価	様子
⑥	国語科	①	○	これまで自分で発する経験のなかった言葉の台詞カードを適切に提示した。
		②	○	決まった台詞だけでなくその時に伝えたい内容の台詞カードを選んだ。
		③	○	お店屋さんの練習でペアになった児童には、自分からやりとりをしようとした。
	図画工作科	①	○	セロハンテープ等使い慣れない道具も使用していた。
		②	○	「かわいい」バッグを作りたいという思いをもって材料等を選んでいった。
		③	○	作り上げるまで集中して取り組み、作ったバッグを友達に見せていた。
	自立活動			友達を呼んだり、自分からカードを提示したりする姿が見られた。友達が応答するまで待たない場面もあった。タブレット端末の使用ができた。

b	国語科	①	○	カード提示がなくても、適切に台詞を言うことができた。
		②	○	「色が好き」等、商品に対する気持ち等を伝えることができた。
			○	積極的に発言し、お店屋さんを楽しんだ。
	図画工作科	①	○	色セロハン等を使って作成した。
		②	○	かけられるかどうか考えながらめがねを作った。
		③	○	作品を見せてまわっていた。
	自立活動	少しずつ教師に自分から手伝いを依頼する場面が増えた。お店さんの練習の中では、友達に積極的に話しかけていた。		

本研究授業の授業検討会で協議された内容も含めて、本取組の成果と課題を以下のようにまとめることができた。

【成果】

- ・学級みんなが屋台や商品の制作、お店屋さんの活動ともに楽しんで活動することができた。
- ・制作では様々な材料を使って、工夫して作成する様子が見られた。
- ・店員とお客になり、児童同士で活発にやりとりすることができた。
- ・児童⑥は、教師だけではなく友達とも積極的にやりとりをする姿が見られた。
- ・児童⑥は台詞カードを使うことで自信をもち、その後は自分の言葉で思いを伝えることができた。

【課題】

- ・「お店屋さん」のロールプレイングで、児童間のやりとりを活発にするという点ではよい単元だったが、将来の販売や買い物につなげることを考えると、チケット制ではなく、「お金」を用いてもよかったのではないかな。より現在及び将来の実生活を意識した授業作りを行いたい。
- ・ある程度スタイルの決まった児童間のやりとりを設定し、児童間のコミュニケーションが深まった。そこから自分の思いを伝えるというコミュニケーションの広がりにもつながった。今後は、1つのお店を複数人で準備する等、協働して課題を達成するような単元を仕組むことが大切になる。
- ・タブレット端末での選択肢の拡大や、カードの種類を増やす等、児童⑥の伝えたい内容に応じることができるような、コミュニケーション手段の拡大が必要。また、新たにカード等を増やす時は、支援者間の共通理解が必要。
- ・児童⑥は、本単元内では安心して積極的に思いを伝えることができるようになったが、実生活で、特に困った場面で自分から支援要求ができるようになるために、今後どんな授業を仕組んでいけばよいのか考えていかなければならない。

（２）第２グループ「自分のめあてに向けて工夫しようとする児童生徒の育成」の研究授業 ＜中学部３年生生活単元学習「ようこそ☆中３科学館へ」＞

本学級には自己主張が少ない生徒が多いが、みんな内言語を多く有しており、生活や学習の中で静かにじっくりと思考や想像をしている様子が見られる。全員が穏やかに友達や教師とかかわることができ、学級内の仲も良い。語彙に関する実態としては、小学校高学年程度、中学年程度、２、３歳程度とばらつきがあるため、生徒の発言や思考を引き出すには、本人たちが具体的にイメージできる言葉かけ等、思考の手がかりとなるような個々の働きかけが必要となる。また、生活経験の偏りや成功体験の実感の少なさから、初めてのことに消極的になることもあるが、好きな活動を準備することで、自ら工夫したり力を発揮したりする姿が見られる。本学級は、校外学習で県立宇宙科学館に行った際に、力やエネルギーの働きに興味を抱き、自分達も科学館を開きたいという思いをもった様子だった。また、これまでに、ゴムや風の動力を生かした玩具づくりに取り組む等、自然の事物や身の回りに起こる現象を比較したり関係づけたりしながら、その基本的な見方・考え方を体験的に学んできている。そこで、興味のある実験や制作の活動により「中３科学館」を開く単元を設定することとした。本単元では、積極的に活動に取り組み、自己有用感を育むことができるように、「中３科学館」に中学部の下級生を招待することとした。グループで実験の準備を行い、下級生に説明したり一緒に実験をしたりする等、友達とのやりとり場面も多く設定することとした。よって、指導内容としては理科と、人との関わりや心理的な安定等を中心とした自立活動を取り扱って単元を計画することとした。

本研究グループでは、これまでのグループ内の研究授業から、「めあてに向けて工夫する児童生徒を育成する」ための効果的な手立てとして、「見通しがもてるよう、準備→練習→本番の流れを取り入れ、単元内で発展させるような単元構成」、「工夫する姿を引き出せるように、活動時間の確保や様々な材料等の準備」、「やりがいや楽しみにつながるような自由度の高い活動と、児童生徒が自分で選ぶ・決める場面の設定」等が上がっていた。

そこで、はじめに１年生向けの「中３科学館」を準備・開催し、それを発展させて２年生向けに準備・開催する単元展開とすることとした。また、２グループに分かれて実験を行うこととし、どの実験を行うかグループ内で話し合って自分達で決めるようにした。どの実験を行うか決めたり、１年生や２年生が実験しやすいように工夫する場面では、自分達で実際に実験しながら考えたり話し合ったりすることができるように、可塑性や操作性の高い素材の材料や道具等を十分に準備しておくようにした。

本研究グループでは『めあて』－『活動』－『振り返り』の授業プロセスを重視しており、本研究授業でも手立てについて検討を深めた。まず「めあて」については、生徒の実態に応じたワークシートを準備し、自分でめあてを立てるようにした。その際は前時の振り返り表を見ることを伝えたり、めあての例文を示したりするようにした。活動に入る前は授業の流れや活動の見通しがもちやすいように写真やイラスト等を活用するとともに、実験の動画や教師によるデモンストレーション等も取り入れるようにした。

「活動」においては、実験の材料等を十分準備し、生徒が試行錯誤しながら考えることができるように活動の時間を確保することに留意した。また、生徒の思考の手がかりになるような言葉を、個別に分かりやすい表現で伝えるよう心がけた。また、生徒が考えたことが実際の実験の工夫等につながるように、必要に応じてアドバイスするようにした。

「振り返り」では、生徒が自分の学習を振り返り、自分でできたという実感とまたやりたいという気持ちが得られるよう支援する。教師も生徒の主体的な取組を賞賛しプラスのフィードバックを行うようにするが、生徒のどういう姿・表情や行動から評価したのか、評価の理由も含めて生徒に分かるように伝えることとした。

【単元目標及び評価規準】

	柱	単元目標	評価規準
理科 (生活科)	ア	身の回りの様々な現象に対して関心をもち、観察、実験等に関する初歩的な技能を身に付けることができる。(理中1、生小2、3 ア)	実験中に起こる現象に関心を向け、教師と一緒に実験の道具を扱っている。(小2)
			実験中に起こる様々な現象や仕組みに対して関心をもち、実験の道具を扱っている。(小3)
			実験中に起こる様々な現象や仕組みに対して関心をもち、実験に関する初歩的な技能を身に付けている。(中1)
	イ	身の回りの様々な現象や仕組みに対して視点をもち、予想をたてながら試行錯誤して実験の方法を考えることができる。(理中1、生小2、3 イ)	実験の中の様々な現象に関心をもち、気持ちを表している。(小2)
			実験の中で、様々な現象の変化を予想して、実験に取り組んでいる。(小3)
			実験の中で、様々な現象や仕組みの変化や違いに気づき、どうなるかの予想をたてて実験を考え、試したりやり直したりしながら取り組んでいる。(中1)
	ウ	友だちと協力して、観察、実験に進んで取り組むことができる。(理中1、生小2、3 ウ)	主体的に実験に取り組もうとしている。(小2、3)
			友達と協力して実験に取り組もうとしている。(中1)

○自立活動については、「単元の個人目標」として設定する。また、指導内容を単元の計画に記載する。評価については、個々の目標に照らして単元の中でできたことや主体的に取り組むことができたことを、活動中の様子から見取って個人の評価として記述する。

【単元の計画（全 22 時間）】

次	時	学習内容	指導内容
1	1～2	○オリエンテーション ○実験①、②(教師の提案した実験)の紹介、試行	○物質・エネルギー【理科】(ものの仕組みや働き【生活】) ・教師や友達と活動し、進んで実験に取り組むこと。 (小2) ・友達と実験を行いその結果に関心をもち、調べようとする。こと。(小3) ・実験の結果からものの変化に気づき、どう変化するかを考えること。(中1) ・実験の結果から、ものがどう変化するかに気づき、予想をすること。(中2) ○聞くこと・話すこと【国】 ○表現【図、美】 ○【自立活動】 ・心理的な安定 (1)(2) ・人間関係の形成 (1) ・コミュニケーション(1)(2)(4) 等の内容を中心に、相互の関連を図りながら、個々に指導内容を設定する。
2	3～15	○実験③～⑧(自分たちで選ぶ実験)の試行 ○「ようこそ☆1年生 中3科学館」内容検討・決定 グループごとに ・実験①、②から1つ ・実験③～⑧から1つ ○準備・リハーサル ○「ようこそ☆1年生 中3科学館」本番	
3	16～21	○「ようこそ☆1年生 中3科学館」振り返り ○「ようこそ☆2年生 中3科学館」内容検討・決定 ・グループごとに実験①～⑧から2つ ○準備・リハーサル ○「ようこそ☆2年生 中3科学館」本番	
4	22	○単元の振り返り	

生徒が実施する実験は以下の通りである。

実験リスト

- 実験1 せんざいクルクル
- 実験2 色水マジック
- 実験3 かたくり粉
- 実験4 段ボール空気砲
- 実験5 静電気ティッシュダンサー
- 実験6 アルソミトラ
- 実験7 ペーパーブーメラン
- 実験8 音を見る

本研究授業の対象生徒◎は、中学部への入学当時は自分の意見を表出することが少なかったが、担任教師やクラスメイトとの関わりが少しずつ増えていく中で、安心して自分の気持ちを伝えるようになってきた。また、しっかり考えて自分の考えを伝えるようにもなってきた。3年生では、友達と積極的にかかわりながら、主体的に活動に取り組む力の育成を目指し、本単元においては、友達と活発に意見交換して実験を工夫しようとし、自信をもって下級生に教える姿を引き出したいと考えた。

【単元の個人目標】

◎	理科	①物の性質に気付き、実験に関する初歩的な技能を身につけることができる。(中1、ア)
		②物の性質、力の働きから、差異点や共通点に気付き、考えたことを伝えることができる。(中1、イ)
		③進んで実験に取り組み、学んだことを身の回りで見つけようとする。(中1、ウ)
	自立活動	①自分の好きな実験や人に見せたい実験を見つけ、主体的に準備をしたり自ら人とかかわろうとしたりすることができる。 (心理的な安定(2)・人間関係の形成(1)・コミュニケーション(2))

第1次のオリエンテーションを基に、第2次では、まず1年生に向けて提示した8つの実験の中から1年生が楽しめると思う実験を「3人博士」と「3年生トリオ」の各グループで2種類選択するようにした。グループで選んだ実験が1つ被り、どちらか別の実験に変更しなくてはならなかった時に、どちらのグループも深く考えずにお互いに譲ろうとしたので、しっかりグループで話し合うように伝えたところ、選んだ理由を生徒たちが述べてどちらにするか決めることができた。各グループで選んだ実験を練習し、実験を説明するための台本も作って「ようこそ☆1年生 中3科学館へ」の本番に臨んだ。事前に作った台本通りに実験を進めることができた(図45)。



〔図45 1年生を迎えての中3科学館の様子〕

第3次では、まず「ようこそ☆1年生中3科学館へ」の振り返りとして、動画を確認した。全員が真剣に動画を見ており、生徒◎は「次は2年生だ」と発言していた。次の学習への意欲を高めることができたようだった。次に2年生に向けた中3科学館で取り組みたい実験を各グループで選択した。「なぜその実験にしたの」と教師が問いかけると、「2年生が好きそうだから」と招待する2年生のことを考えて判断したことが窺えた。ここでも両グループで1つ実験が被ってしまったが、今回はすぐ譲ろうとするのではなく、生徒◎は「どうするか話し合って決める」と発言していた。グループでもう一度話し合い実験を決めることができた(図46)。



〔図46 話し合って実験を決める様子〕

準備・リハーサル活動では、うまく実験が進むように工夫する姿が見られた。生徒◎は遠くまでブーメランが遠くまで跳ぶように、試し投げしながら厚紙の羽の微調整に何度も取り組んでいた。

各授業の振り返りでは、教師はうまくいったことだけでなく、チャレンジしたことや友達を手伝ったこと等も賞賛するようにした。はじめは「振り返り」での発言が少ない生徒たちだったが、だんだんと自分の学習を振り返って思いを表出するようになった。また、次時にしたいことや頑張りたいこと等も表出するようになっていった。生徒◎は単元全体の振り返りで「緊張したけど、『ようこそ☆中3科学館』をしてよかった」という感想を発表していた。「ようこそ☆2年生中3科学館へ」の本番でも、緊張しながらも2年生に丁寧に説明したり実験に取り組んだりする様子が見られた（図47）。



〔図 47 実験を教える様子〕

対象生徒◎の単元目標に対して以下のように評価を行った。

児童	教科		評価	様子
◎	理科	①	○	いろいろな実験に繰り返し取り組み、実験の方法を身に付けることができた。
		②	○	どのような現象が起これば実験成功なのか分かり、成功するようにやり方を考えて、気付いたことを伝えることができた。
		③	○	どの実験についても意欲的に取り組んでいた。その後も少し工夫して試すことに繰り返し取り組む姿が見られるようになった。
	自立活動	実験を選択する場面では自分の意見をしっかり伝えることができた。1年生や2年生に実験を楽しんでほしいという思いをもち準備等に取り組んだ。当日も相手の反応を見ながら積極的に実験を進めていた。		

本研究授業の授業検討会で協議された内容も含めて、本取組の成果と課題を以下のようにまとめることができた。

【成果】

- ・取り組む実験をグループで決める等、生徒が自己選択・自己決定する場面を設定できた。自分達で決めた実験だからこそ、主体的に取り組む様子が見られたと考える。
- ・小グループで話し合うようにしたことで、生徒は心理的負担をそれほど大きく感じずに自分の意見を発信することができたのではないかと考える。時間もきちんと確保されており、生徒が自分の意見を出しやすい授業になっていた。また、小グループでの活動を通して、友達に応じたかわり方が分かったようで、授業内だけでなく生徒同士のかかわりが増えた。
- ・「めあて」→「活動」→「振り返り」のサイクルをくり返すことで見通しをもつことができたようで、今が何の活動をするべきかが分かり、どの活動においても素早く取りかかることができるようになった。
- ・〇〇のためにという相手意識をもって工夫し、喜ばれる経験を積むことができた。自己有用感を高めることができる単元であったと考える。生徒たちから「こうしたい」「こうしたいから、〇〇の材料が欲しい」等の学習に積極的に取り組もうとする発言が出されるようになった。

【課題】

- ・少しずつ高まってはいるが、まだ自己肯定感は低い状況にある。自分の頑張りに対し達成感を味わい、自己肯定感を高めることができるような学習を年間で計画的に設定していく必要がある。
- ・今回は生徒が「自分で立てためあて」と教師が「もたせたいと考えるめあて」の大きな相違はなかったが、生徒が「自分でめあてをたてる」中では、ズレが生じてくる場合も考えられる。その場合はどのように対応するか検討していかなければならない。
- ・主体的に取り組もうとする姿勢は見られるようになったが、「自分で時間を確認して動く」、「忘れ物がないか確認する」等、課題遂行のための段取り等については教師が支援することがまだ多い。様々な学習の場面で、課題を達成するために計画するという経験を積めるようにしなくてはならない。
- ・伝えたいことがある様子は見られるが、伝えたい内容を教師が捉えきれない場面もあった。発信することに自信をもてるような支援に加え、経験や語彙の広がりや表現手段の獲得等も目指していかなければならない。

（３）第３グループ「イメージを広げて表現する児童生徒の育成～好きなことから始めてみよう～」の研究授業 <高等部美術科「立体であらわす～わたしの守り神～」>

高等部では、美術の授業を高等部全体で行っている。普段から粘土等の材料を使って形を作ることや、イラストを描いたり模写したりする等の造形活動を好む生徒が多い。美術の学習においては、課題に沿った作品づくりを楽しみ、技能の習得に意欲を示す生徒も見られる。また、鑑賞活動においては、互いの作品を鑑賞してよさやおもしろさを感じ、称える雰囲気がある。

このように、自分の好みや価値観で作品づくりを楽しんでいる生徒が多いが、興味・関心の幅が限定されていたり、自分の考えや思いを描いて表現することを苦手としたりする生徒も複数いる。

毎年高等部では、この時期に特別支援学校高等部美術科の目標に示される「表現の意図と工夫等について考え」、「美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める」ことに重点を置き、彫塑を教材として取り扱っている。

本単元では、グループの研究テーマ「イメージを広げて表現する児童生徒の育成」を踏まえ、「わたしの守り神」を塑像で表す学習に取り組む。「わたしの守り神」を「自分が大好きなもの」や「自分が愛しているもの」、「大切にしているもの」、「自分や家族を守ってくれるもの」、「願いや祈りを込めたもの」等広い意味で捉えることで、生徒の興味・関心に基づく自由な発想を引き出し、イメージを広げることができる単元であると考えた。

【単元目標及び評価規準】

	単元目標	評価規準
図 画 工 作 科 ・ 美 術 科	粘土を用いて形を作ったり、道具等を適切に用いて形作ったり、立体的に作ったりすることができる。	粘土やいくつかの道具を使って形作っている。(図小3 ア)
		道具、材料を適切に用いて、粘土で立体的に形作っている。(美中1 ア)
		道具、材料の特徴を生かして、粘土で立体的に形作っている。(美中2 ア)
	自分のイメージを表現したり、願いや祈りについて考えて表現したり、友達の意見も参考にしながら自分の表現を工夫したりすることができる。	表したいものを思い付いて、表現している。(図小3イ)
		自分の思いや願い等の想像したことを基に表したい事柄を表現している。(美中1 イ)
		友達の意見も参考にしながら自分たちの願いや祈りについて考え、その思いを表現している。(美中2 イ)
	創作活動の楽しみを味わい、主体的に取り組むことができる。	夢中になって時間いっぱい創作活動に取り組んでいる。(図小3、美中1、2 ウ)

【単元の計画（全8時間）】

次	時	学習内容	指導内容
1	1	導入 ・暮らしの中の縁起物や参考作品を鑑賞する。 ・自分の願いや祈りについて考える。	・表したいことを思い付くこと(図小3) ・身近な作品や日本の伝統的な美術・工芸品等の表現や役割、機能を知ること(美中1、2)
2	2 ～ 4	アイデアスケッチ制作 ・「私の守り神」をデザインする。 ・自分のデザインを友達に紹介し合う ・自分のデザインをバージョンアップさせる	・思ったことから表したいことを思い付くこと(図小3) ・日常生活の中で経験したことや思ったことを基にして、表したいことや表し方を考えること(美中1) ・感じたことや考えたこと、実際にはありえないこと、自分の思いや願い等の想像したことを基に表したいことを考えること(美中2)
3	5 ～ 8	形を作ろう 1. 粘土に触れる 2. おおまかな形を作る 3. 形を整える 4. 細部を作る 5. 色を塗る	・粘土を使い工夫して作品を作ること(図小3) ・材料や用具の扱いに親しみ、表現したいことに合わせて、表し方を工夫すること(美中1) ・材料や用具の特徴を生かして、表し方を工夫すること(美中2)

本取組では、イメージをもつための手掛かりとして生徒の興味・関心を生かしていくようにした。生徒が自分の好きなものや興味がある事柄を再認識できるように、事前にアンケート調査を行った。アンケートは、「わたしの守り神」の題材に関連した好きなものを探ることができるように、「色」「自然の風景」「生き物」「いろんな場所」「素材・形」「植物」「キャラクター・アニメ」「活動」の8つの項目について、約50問の2択の設問を準備した。イラスト等で示した事物の好きな方に○をつける簡単な方法だったため、どの生徒も回答することができた。また、2択だけでなく、自由記述で「好きなもの」のアンケートも行ったところ、A4の用紙いっぱい好きなものを書いた生徒もいた。

第1次では、実際に見られる「守り神」のオブジェクト等を電子黒板で紹介しながらオリエンテーションを行い、その後、自分の願いや祈りについてワークシートに書く活動を行った(図48)。「平和に対する祈り」や「家族に対する愛情」、「なりたい自分の姿」等について書くことができた生徒もいた。願いや祈りという抽象的な言葉からイメージすることが難しい生徒も、「やりたいことは何ですか」、「欲しいものがありますか」等問いかけると、その問いに対して答えて記入することができていた。

第2次では、アイデアスケッチの作成を行った。第1次のワークシートを基に「守り神」を意識してスケッチすることができる生徒もいたが、それが難しい生徒も、アンケートで記載した自分の好きなものを思い浮かべて描くことができた。さらにイメージしたものを描いて表現すること自体が難しい生徒については、教師がアンケートの回答を基に、「○○が好きなんだね。描いてみますか」等と言葉かけしたり、辞典等複数の参考図を準備したりする等の手立てをとったことにより、活動にスムーズに取り組み始めることができた。アイデアスケッチを作成する際は、制作意欲を高めるために、様々な画材を用意し、生徒が自由に選んで使えるようにした。また、タブレット端末も活用して、描きたいものに近い画像を検索できるようにした(図49)。

第2次では、生徒がもっているイメージを広げる方策として、グループで友達にアイデアスケッチを見せ合い、工夫点等を話し合っ、話し合いをもとにアイデアスケッチを改善するという活動に取り組んだ(図50)。友達の商品を見たり、友達からアイデアをもら

〔図48 願いや祈りについて書いたワークシート〕

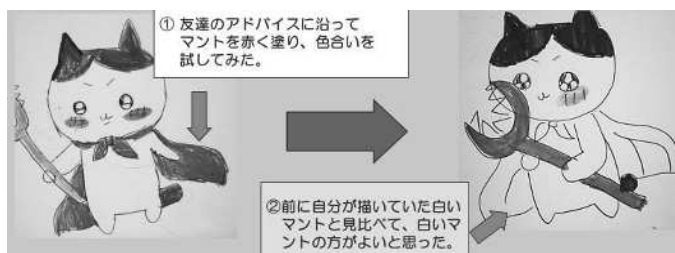


〔図49 アイデアスケッチを描く様子〕



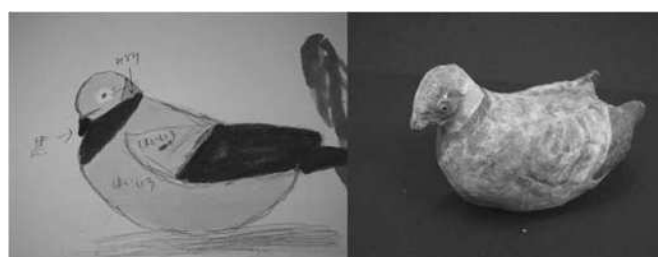
〔図50 アイデアスケッチを発表し合う様子〕

ったりすることで、さらに表現のイメージを広げることができると考えた。グループで紹介した後に、「いいね」「カッコいい」と友達に認められたことで、多くの生徒が自信をもったようだった。また、「〇〇したらどう」と、友達にアドバイスする生徒もいた。話合いの後は、アイデアスケッチをし直す時間を設けた。ある生徒は、友達からのアドバイスに応じて、マントの部分に赤く塗って見たが、前に自分が描いた白いマントと見比べた結果、白を選んでいた（図 51）。



【図 51 友達のアドバイスを受けアイデアスケッチと元のスケッチと比較】

第 3 次は、自分のアイデアスケッチを基に紙粘土を用いて立体作品を作った（図 52）。平面的なスケッチを立体に表すことが難しい生徒もいたが、どの生徒もスケッチを何度も見ながら、自分のイメージを表そうと試行錯誤して作る様子が見られた。



【図 52 アイデアスケッチを基に作成した立体作品】

本取組では、生徒の興味・関心も取り入れながら作りたいものをイメージしてスケッチし、友達に紹介する活動を取り入れた。自分の思いが反映され、それが友達に認められているので、周りからのアドバイスがスムーズに受け入れられたのではないかと考えられる。また、「よりよくしよう」という思いをもち、何度も試行錯誤する様子が見られた。このように、「やってみたい」と思ったことにチャレンジし、壁に当たった時も、自分のやり方だけにこだわらず、周りからのアドバイスや応援を受け入れながら、諦めずに挑戦し続けることで、成就感を味わうことができるような授業を今後も仕組んでいきたいと考える。

本取組の成果と課題を以下のようにまとめた。

【成果】

- ・「願いや祈り」となると、なかなか意見が出ない生徒でも、「好きなもの」や「どんなことをしたいか」等、身近なことに置き換えて質問することで少しずつ意見を引き出すことができ、「願い」につなげていくことができた。
- ・友達に紹介し合う活動において自分の作品が認められることで、主体的に取り組もうとする態度が養われた。
また、認め合う安心感があるからこそ、友達のアドバイスを素直に受け止めることができたと考ええる。
- ・アイデアスケッチをし直す活動を設けたことで、じっくり思考する生徒の姿を引き出すことができた。

【課題】

- ・「好きなもの」と「願いや祈り」は同じではないとも考える。両者を結び付けるように思考を深めていくことは、まだまだ難しいと感じた。
- ・アンケートの項目から外れたところにも、生徒の興味・関心があると思われるが、発語等の少ない生徒から、それを引き出すことは難しい。生徒に好きな物のアンケートをとったことで、生徒の自由な発想を制限してしまっている恐れもあるのではないかな。
- ・今回、友達からのアドバイスを受けた後に、自分のアイデアスケッチをし直す時間がもう少しほしかった。
- ・経験や知識が少ないと生徒自身でイメージを広げることは難しい。そこでいろいろな情報を提示するが、情報を与えすぎると自由な発想を阻害してしまう恐れがある。インプットのバランスの難しさを改めて考えさせられた。
- ・美術・音楽・体育等の学習は卒業後の人生を豊かにしてくれるものなので、社会に出ても自分から「やってみよう」と思えるように、成就感や達成感がもてる授業作りをしていかなくてはならない。
- ・今回、アイデアスケッチの変遷等からも、生徒の思考・判断の過程を把握することができたが、基本的には生徒の内面を見取ることは難しい。教師の記録や動画での撮影等まだまだ工夫が必要だと感じている。

